

あとがき

「未来の歴史を刻む」

あとがき 「未来の歴史を刻む」

大阪府特別顧問、大阪公立大学研究推進機構特別教授 橋爪紳也

浜寺公園が150年を数えた。次の50年、すなわち200周年に向けて、私たちは新たな歩みを踏み出している。

令和2年に鳳土木事務所・公園課が『浜寺公園マネジメントプラン』をとりまとめている。そこにあるのは万葉集や古今和歌集にも謳われた「高師の浜」に由来する「日本最古の公園」のひとつであることを強調、歴史ある松林景観を守ることで、公園のブランド力を高めることが謳われている。

加えて、世界でも例のない日本風のバラ庭園、プールなどのスポーツ施設群、交通遊園など個性ある施設を活かして、「賑わいのある公園」を目指すものとしている。いっぽうで堺市地域防災計画における広域避難場所という役割も重要である。ドクターヘリの運航時には緊急時離着陸場として使用されることになっている。

浜寺公園に刻まれた歴史は、年表に記載される出来事を語るだけでは十分ではない。大切なのは、松林で保養し、海水浴に興じ、スポーツを楽しんできた人々の体験であり記憶である。この公園で過ごしたすべての人の「楽しみ時間」の総和こそが、浜寺公園の真の歴史である。

公園は、自然の所産ではない。私たちが近代化するなかで整備してきた都市施設である。私たちは時折、ここに防潮林が整備された時間に想いを馳せるべきだろう。人々は自然の脅威から暮らしを護るべく、こ

ここに松林を設けた。結果として、白砂青松と呼ばれる風光が生み出されることになるが、それも人の営為である。

近年、新しい公園のあり方が模索されている。ひとつの方向性が公園の活用である。従来のように公設公営とするだけではなく、民間の活力を導入するパークマネジメントが全国各地で採用されている。カフェなどの飲食店、スポーツジムや関連する物販店を整備、さらには観光客の利用を促進するべく宿泊施設を拡充する事例が目立っている。

公園に求められる機能も変化しつつある。健やかに暮らす「ウェルネス」だけではなく、誰もが心身ともに満たされ、身体的・精神的・社会的にも幸せな状態が持続することを示す「ウェルビーイング」が目されている。これからの公園も人々を「幸せ」にする場とならなければいけないのではないか。

さらには公園だけではなく、周辺との関係も充足させなければいけない。浜寺公園は浜寺水路に面しているが、水上のアクティビティが充実しているとはいえない。また南にある臨海スポーツセンターや、今後、進展する旧高石市民会館の跡地の活用も意識し、「グレーター浜寺公園」とでも呼ぶべき枠組を想定しつつ、浜寺公園の担う役割を考えていくべきだろう。

私たちは優れた風物や個性を維持しつつ、新たに公園に求められる要素を拡充しながら、良い公園に改め次世代に託す責任がある。過去を懐旧する歴史ではなく、未来に向けた歴史を多くの人とともに浜寺公園の地に刻んでいきたい。

開設150年記念フォーラム講演録  
「浜寺公園150年のあゆみ」

製作：2024年3月

発行：大阪府鳳土木事務所

本書の全部または一部を無断で複写・複製・転載することを禁じます。